

在京白聖會

在京
白聖會
報

5月10日(土)東京グリーンパレスで開催

日時：5月10日(土) 講演会 15時15分～16時
 総会・懇親会 16時～19時
 場所：東京グリーンパレス(麹町 日本テレビ隣)
 会費：一般／一万円(年会費二,〇〇〇円を含む)
 学生・院生(社会人を除く)／三,〇〇〇円(同左)

在京白聖会総会は、今年で第40回の節目を迎えます。幹事を担当させていただきますのは、



書と絵画の展示コーナー



岩手の地酒で鏡開き

在京の同級生はもちろん、盛岡の同級生とも連携しながら準備を進めております。
 総会には、盛岡から、母校の遠藤洋一校長と白聖同窓会会長に新たに就任された安達孝一會長のほか、恩師の高橋満先生、菊池栄光先生、片山千賀志先生をお招きする予定です。

講師・石川一洋さんのプロフィール

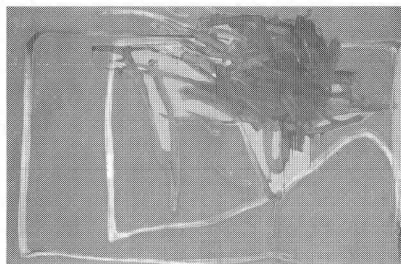


石川一洋 (S51年卒)
 82年NHK入局
 秋田放送局、青森放送局、東京国際部を経て
 1992年 モスクワ特派員
 1996年 東京国際部
 2002年 モスクワ支局長
 2007年 解説委員

画家・村井俊二さんのプロフィール



村井俊二 (S51年卒)
 87年多摩美術大学大学院修了。
 89年東京芸術大学大学院修了。
 「子供のお絵書きに絵画の始源を見そこに垂直降下」して描いた「CHILD Work」と題する一連の実験的作品などが高く評価され、個展、グループ展などで幅広く活躍している。

「ダンス4才8ヶ月」
油彩(20cm×180cm, 2003年)

本年は、総会に先立って、皆さんもNHKニュースでよくご覧になった51年卒のNHK前モスクワ支局長(現NHK解説委員)の石川一洋君に、「プーチンとメドベージェフ」と題して、変貌を遂げるロシアの最新事情や駐在のこぼれ話などを講演してもらいます。



昨年の総会の記念撮影(入りきれなかった方はごめんなさい)

お願い

同封の振替用紙で年会費二,〇〇〇円の振込みをお願いします。

ご出席の確認の葉書を同封させていただきました。恐縮ですが、4月25日(金)までにご投函いただきますようお願いいたします。(51年卒幹事一同)



今年の幹事のS51年卒の皆さん(昨年の引き継ぎ風景)

また、懇親会場に隣接の別コーナーでは、同じく51年卒の村井俊二君による絵画の展示を行います。こちらもお楽しみ下さい。
 今年は、土曜日の夕刻の開催とさせていただきます。今までなかなか都合がつかなかった方々も、ぜひご出席いただき、同級生や先輩・後輩との旧交を温めて下さい。多数のご参加を心よりお待ちしております。

第24号

平成20年3月24日

発行

在京白聖会
(事務局)

〒105-0003 東京都港区

西新橋1-17-11

リパティビル 8F

玉澤健児税理士事務所 内

TEL&FAX.03-3501-1391(直通)

<http://www.hakua.sokei.co.jp/index.htm>

特別寄稿

終戦の日のシヨック
「土人踊り」の原点はこれだ

小川達雄 (S22年卒)

在京白聖会報第15号(平成15年10月)において、「土人踊り」(現在は「猛者踊り」と改称)のルーツを探る座談会を行いました。一部、記憶違いなどもあったようです。当時をもっとも良く知る小川達雄氏に御寄稿をいただきました。

それは昭和二十年八月十五日、午後零時半過ぎの校庭で。昭和天皇のいわゆる玉音放送「終戦の詔勅」が終わり、新田校長の短い訓話のあと解散。すると四年生の生徒の列から田村喜八がすぐ横に出て、クニヤクニヤ、奇妙な踊りを始めた。

哲郎教諭(後に一高校長、県教育長)は日記にこう記す。
「御一語一語肺腑に氷の如くしみわたる。溢れる涙、せき上げる痛恨、刃の如く心底を突く。
つづいて内閣告諭あり、終つ



「土人」の行進

て学校長はただ「八月十五日、この日を忘れるな」と、締めつけられた思ひにやつと口を開いた如く全校生徒に叫ぶ。

四年の生徒達のすすり泣きの声がきこえる。動員生徒として、必勝の敢闘を純情を以て捧げ来た彼等だ。空爆の死地に身を挺し彼等には真に殉国に燃ゆる

思ひのみがあったのだ。」(『とんぼめがね』)

新制盛岡一高になった昭和23年の「土人踊り」。写真前列中央の青龍刀を持っているのが首長の田村喜八氏(S22年卒/写真提供)。最初の「土人踊り」は、昭和21年5月24日に行われた第66回大運動会で披露され、その原点は昭和20年8月15日の玉音放送で受けた生徒の衝撃であった

わたしたち四年生は気が抜けてしまい、誰も泣いた者はいなかった。熱い日盛りであったのに「氷の如く」だの、どうも実際とは違う。「この日を忘れるな」と叫んだのは翌日、岩山で開墾作業が始まる前の演説、水戸っぱの教頭のこと、新田

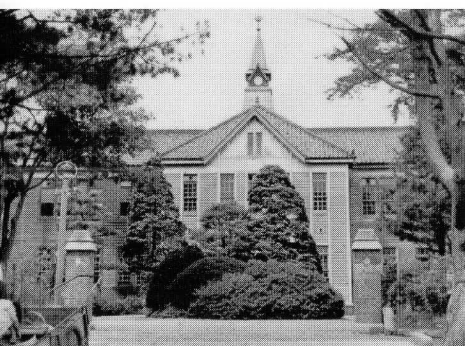
信寛校長は「大御心を戴して泰平の御代を」と、領きながら云ったはずである。これは一種の美文で、その当時の常識で固められていた。

さて翌昭和二十一年五月二十四日金曜日、第六十六回大運動会実施(十三日は準備整わず開校記念式典のみ)。五年生ともなれば自由がきき、昼近く樋渡圭之、高橋暁に誘われて学校に行くと、ちょうど、ホウ、ホウと甲高い叫び声で、体じゅう泥絵の具を塗りたくった奇妙な土人の一団が、次々、次々に繰り込んでくるところであった。

腰には蓑のような藁のような得体のしれぬものを提げて、穂先までついた槍、顔はひどく汚して、誰だかいつこうにわからない。

ノーマニヤサバヤンブーニヤ、ノオナマニヤサバヤンブーニヤン、ラササーヤサーヤゲ、(用務員からの伝授、という)

インドネシアの民謡か、やたら怪しげな調子でうたって、校



なつかしい白聖城

庭にぐるり、円陣をかくて座ると、酋長の田村喜八がやおら立ち上がる。天を仰いで呪文を唱えると土人達はいっせいに地にひれ伏した。

円陣の真ん中には、いつの間にか数人が居て、爆竹を鳴らし、発煙筒を焚く。科学班の連中だ。くねくね、丸く太った田村が踊り、足取り重く弦月の下、鳥の尾羽根をつけたお前たちはどこへ行くのか?

弁論部の小平勝美が、なにか荘重な詩を唱え始めた。校庭を取り巻いて立ち並んだ観客からは、最初からドツと笑い声が上がる中で、わたしはあの終戦の日の、クニヤクニヤ踊りを思い出していた。田村喜八のあれが、この原点であったのだ。それにしても、飛んでもないことを始めたものである。

いま田村と話す、負けてしまつて神経がおかしかったとしきりに云う。肝入りは吉田清志それからラグビー部の仲間、弁論部の野中隆弥が宮沢賢治から作詩して小平朗読。だんだん、同級生の名前が上がつて来たが、しかし、ことの始まりは、虚脱状態からの自己主張であったのはたしかで、これで自分をなんとか取り戻していったのであろう。

これは盛岡中学のエネルギーを語る好個な例、といえるかもしれない。※田村は応援団長。



小川達雄氏(S22年卒)

手と腰、足をはげしく振って、彼はしきりに生徒たちに呼びかけたが、みんな、日本が負けたというとんでもない打撃で、黙ったまま、ただ見つめるばかりであった。

その玉音放送のことを、石橋

参加者募集

「滝山城跡」(八王子市)見学実施要領

平成20年4月19日(土) — 中世城郭探訪の集い —

在京白聖会文化活動として、平成20年度も「中世城郭探訪の集い」を実施します。今年1回目の見学会は次の要領で行います。城に興味のない方でも、浩然の気を養うハイキングと思っ

て御参加下さい。

○期日…4月19日(土曜・雨天中止)

○見学先…滝山城跡(八王子市)

○集合場所…JR東京駅中央線(一番及び二番線)ホーム北端階段付近(神田駅寄り)

○集合時刻…午前8時半

○行動…08:40東京駅発↓09:38八王子駅着↓09:57八王子駅発(バス)↓昼食を挟んで見学(軽食を持参して下さい)↓八王子駅へ移動(バス)後、解散(概ね午後3時頃)

※解散後、八王子駅前にて懇親



滝山城跡の碑

会(有志)

○経費…東京駅〜八王子駅間の運賃(片道780円)、バス代(往路330円、復路370円)

○服装…軽装。険しい所はありませんが、未舗装路を散策しますので、歩き易い靴でお出下さい。

○見所…永祿12年(1569)、小田原攻めのために甲斐を出た武田信玄が、その途中に血祭りにあげようとして滝山城を攻めたが撃退されており、勇猛な武田勢を寡兵にて退けた北条流築城術の粋を集めた堅い守りの実態をつぶさに見る事ができる。日本最大級の中世平山城の一つであり、現在は城域の一部が都立滝山自然公園として管理されており、ハイキング・コースも設定されている。

○参加申込…在京白聖会事務局に4月17日(木)までにお申込み下さい。

○その他…現地集合及び解散でも構いません。その場合、参加申込み時にその旨お申し出戴き、当日09:40までにJR八王子駅改札口付近にお出下さい。



石垣山城跡の井戸曲輪でのスナップ。石垣山からは小田原城や小田原市街が一望に俯瞰できた

■石垣山城見学後記

昨秋11月17日(土)、好天の下、石垣山城見学を実施しました。東海道線早川駅で下車後、小田原城攻城戦の最中に病没した秀吉配下の武将堀秀政の墓所に詣でた後、みかん畑を縫うように続く道を登って石垣山城を目指しました。辿り着いた城跡から

の眺望は絶景で、眼下の小田原市街はもとより、相模湾の向こうに遠く三浦半島を望むことも出来ました。

総石垣作りであった城の石垣は関東大震災であらかた倒壊しましたが、この城の白眉ともいふべき井戸曲輪の石垣は、四百年以上も前の姿のままに残っていました。この井戸は淀君が使ったとも言われており、参加した女性陣は、今も水を湛えている井戸の底まで降りて水に触れ、その時代を彩った悲劇のヒロインの生涯に思いをいたしておりました。写真は、その井戸曲輪内でのスナップです。

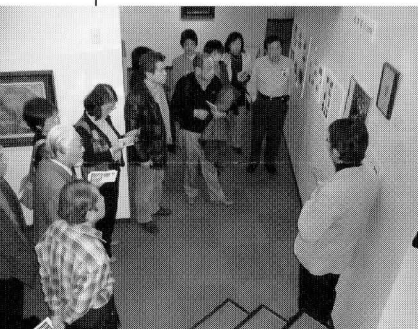
その後山を下って、箱根湯本駅近くの早雲寺を訪れ、北条五代の墓、連歌師宗祇の墓、粹人北条幻庵作と伝えられる枯山水を見て、北条氏の栄枯盛衰、文化の香りを感しました。

活動報告

大川美術館「松本竣介を鑑賞する旅」

平成19年12月8日(土) — 芸術鑑賞クラブ —

芸術鑑賞クラブ Le Salon Blanc は昨年12月4日、桐生市の大川美術館で「松本竣介を鑑賞する旅」を行いました。松本竣介は船越保武と盛中の同級生で、昭和6年卒。昭和23年、36歳の若さで天逝しましたが、その斬新で繊細な作品は、日本近代洋画



学芸員の解説で見学

また、美術館の近所にあり偶然見学した彦部邸は、先祖が鎌倉時代、岩手県紫波(斯波)郡彦部郷に移って彦部姓を名乗ったといわれ、いわば彦部のルーツでした。邸内には彦部小学校児童の図画や書作品が展示されるなど、交流があるということ、うれしい発見でした。

史にエポックを切り拓いた画家として、近年、高く評価されています。大川美術館は、この松本竣介のコレクションで知られ、当日は学芸員に解説していただき、見学しました。



岩手の彦部のルーツの彦部邸。邸内には彦部小学校児童の作品が展示されていた



大川美術館の前で

参加者募集

「第四回在京白聖レディス会」開催

平成20年6月28日(土) — 在京白聖レディス会 —

女性同士の情報交換や親睦を目的に始まった「在京白聖レディス会」は四回目を迎えました。新しい出会いから始まるものもあるでしょう。あなたもこの輪に加わりませんか。

■開催要項

日時：平成20年6月28日(土)
12時～15時(～16時30分)
(16時30分まで同所使用可)

会場：アルカディア市ヶ谷
(私学会館JR線・地下鉄市ヶ谷駅 徒歩2分)

TEL 03-3261-9921(代)

会費：五千円

当日は清水敬子さん(昭31年卒、元芝浦工大教授)の「コンピュータ開発夜話・古今東西早わかり」の楽しい講演を皮切りに、お食事をしながら、学年をこえて親しく交流をはかりたいと思います。

在京および関東在住のOGの皆様の参加をお待ちしています。

参加ご希望の方は左記担当幹事まで、住所、氏名、卒業年度、電話(FAX)番号を電話またはFAXにて6月15日(日)までにご連絡ください。

●担当幹事(昭31年卒)

大野瑛子 Tel & Fax 03-346-4121

小芥米不美 Tel 042-493-0504

Fax 042-493-0612

小川育子 Tel 042-592-5133



昨年の「在京白聖レディス会」(2007年6月23日・大森東急イン)



私たちが今年の幹事です

白聖五行歌会

白聖五行歌会は、毎月第1金曜日午後6時30分から秋葉原で歌会を行っています。参加希望の方は03-3269-3420(42年卒・白聖五行歌会代表)までお気軽にご連絡ください。メール sakuraco@leaf.ocn.ne.jp 可。

清流の魚は笑い
山々は四季折々化粧し
人の心は温かい
思い出が栖む故郷は
心のオアシスだ
伊奈 裕 (38年卒)
ホロ ホロ
鳥になつて
なきたい
夜
山田武秋 (42年卒)

ぼつと咲いた
花一輪
心ときめく
春の
兆し
だいてんち (36年卒)
鳥や猫が寄ってくる
草木が話し掛けてくる
孤独とはこんなにも賑やかで
心強いものであったのか?
知らなかった
光平 (31年卒)

※07年11月～08年3月までの作品から抜粋。作者名はペンネームもあります。

●第5回在京白聖会ゴルフ大会

優勝・年次対抗の部は「40年卒チーム」
個人は鈴木昭久さん(20年卒)

昨秋11月22日(木)、ザ・ゴルフクラブ竜ヶ崎で行われた在京白聖会ゴルフ大会は39名が参加。好天にも恵まれ、白熱した戦いが展開されました。

結果は、年次対抗優勝が「40年卒(菅原克之、戸澤聡、千葉悠児、石井充)42年卒」、個人の部は、79歳の鈴木昭久さん(20年卒)が優勝しました。



年次対抗優勝の40年卒チームと個人の部優勝の鈴木昭久さん



昨年の白聖ゴルフ大会参加者

TOPICS

●三船康道さん(S43年卒)

「出会いたい東京の名建築」
歴史・文化のまちづくりで多くの実績をあげる著者の、東京の名建築紹介の本。一冊あればウォーキングの楽しみも倍に。手許において活用したい一冊だ。



重要文化財に指定されている池袋・自由学園「明日館」で行われた白聖五行歌会2周年記念講演

●白聖五行歌会2周年記念講演

小川達雄氏「宮沢賢治の五行の歌」
2月9日 自由学園明日館で開催

白聖五行歌会は発会2周年を記念し、S22年卒の作家・小川達雄先生を講師に迎え「宮沢賢治の五行の歌」と題して記念講演を池袋の自由学園「明日館」で行いました。



新人物往来社 刊
2007年9月25日発行
(定価2,000円+税)